

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立新宿小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・都道府県の位置や名称、国土の主な地形などについての知識が定着してきた。
- ・資料から読み取った情報を比較したり、関連付けたりして、そこから分かることを考えることができるようになってきた。

(2) 課題

- ・四方位や地図記号などについての知識を定着させる。
- ・資料を基に判断したり自分の言葉で表現したりしようとする意欲を高めて、力を身に付けさせていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼		
第5学年	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼	
第6学年	目標値との比較：▼ 区平均との比較：△	目標値との比較：▼ 区平均との比較：＝	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4学年 ・目標値を下回った。 ・市の様子に移り変わりやくらしの移り変わりについておおむね理解できている。 ・工場の仕事、店ではたらく人、地図記号についての理解、資料の読み取りに課題がある。	第4学年 ・目標値をやや下回った。 ・資料を基にいろいろな店について、人口の変化について表現することはおおむねできている。 ・店ではたらく人について資料を基に考え、判断することに課題がある。	第4学年 ・短答問題は目標値とほぼ同程度である。 ・選択問題においては目標値をやや下回っている。このことから四方位や地図記号、事件発生時に何番に電話することなど基本的な事実を正確に理解する力がやや弱いことが考えられ、反復学習や復習を積極的に行っていく必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5学年 ・目標値を下回った。 ・八方位や都道府県の位置及び名称ついての理解に課題がある。また、交通の様子において、地図の読み取りに課題がある。	第5学年 ・目標値を上回った。 ・地域産業の課題解決や発展するための取組について、資料を基に考えたり判断したりすることができている。 ・節水や明治用水などの工夫について資料を基に判断することに課題がある。	第5学年 ・記述問題は目標値とほぼ同程度である。 ・短答問題においては目標値をやや下回っている。このことから基本的な事実や用語を正確に理解する力がやや弱いことが考えられ、反復学習や復習を積極的に行っていく必要がある。
第6学年 ・目標値を下回った。 ・日本における自動車などの工業生産についての理解はできている。 ・世界の国土についての理解や資料の読み取りに課題がある。 ・日本の農業や水産業において、理解をもとに生産量等の変化の資料を読み取る力に課題がある。	第6学年 ・目標値を上回った。 ・食料生産や工業生産において、資料を基に考えたり、表現したりすることがおおむねできている。 ・日本の気候の特徴に着目して、雨温図などを読み取り判断する力に課題がある。	第6学年 ・活用問題は目標値を上回ったが、基礎問題においては目標値を下回った。 ・自分の考えをもって重要な語句などを用いて、他者に伝えることができるよう学習に取り組んでいく必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教室にある四方位の表示を活用したり、地図を見た時に方位を確かめたりするなど、四方位を意識させる機会を増やす。 ・ICTを活用して資料を調べたり、学習したことをまとめたりできるようにする。	・社会的事象について考えたことや社会への関わり方について選択・判断したことを、文章で記述したり、資料などを用いて説明したりする活動を行う。 ・思考ツールを活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えられるようにする。	・単元終末に、学習したことを基に、生活の在り方やこれからの地域社会の発展について考えたことをまとめる活動を取り入れる。 ・課題提示の方法を工夫したり、見学や体験などの活動を取り入れたり児童が意欲的に学習に取り組めるような授業デザインを考える。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習のまとめを、重要な語句を使って自分で書く活動を継続する。 ・地図資料を使って学習をすすめたり、授業以外でも日本をはじめ様々な国々の様子に触れたりする機会を増やす。 ・ICTを活用してグラフを重ねて資料を比較しやすくしたり、黒板に提示して常に見ることができるようにしたりするなど、必要に応じてデジタルとアナログを使い分ける。	・思考ツールを活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるようにする。 ・社会的事象について考えたことや社会への関わり方について選択・判断したことを、文章で記述したり、資料などを用いて説明したり、根拠や理由などを明確にして話し合う活動を行う。	・学習終わりや単元の終わりに分かったことを文章化したり説明したりする活動を取り入れる。その際、学習した用語を使い、学習で得た知識を活用していこうとする力を育む。 ・課題提示の方法を工夫したり、児童が意欲的に学習に取り組めるような導入を考えたりする。 ・日常的に都道府県、日本や諸外国の文化等に触れる機会を増やす。 ・見学や体験などの活動をできるだけ取り入れる。ICTなども活用して可能な範囲で見学・体験ができるようにする。